

MfG_J_Person_in_Nagaoka_Takeishi_Teishou_and Takeishi_Kouzaburou
T-12-5_武石貞松と武石弘三郎

武石貞松

武石弘三郎

近隣の武石弘三郎作のブロンズ像、大理石像

弘三郎がかつて作像した、新潟の医学に貢献したリーダー

武石貞松　山田寒山・篆刻文献より

武石貞松(1868-1931)は、南蒲原郡中之島村大字長呂の庄家に生まれた漢詩人。長岡の誠意塾に学び、師の高橋竹介の信任厚く、のち地元に戻り自邸にて漢詩塾・修斎館を開き地域の教育に尽力した。文人像以外にも地域振興に努め、農業整備・架橋・信用組合創立等社貢献度が高く徳望祝された。『南蒲原郡先賢伝』(大正12年刊)は名著として読まれる。当時の越人には詩歌集を自刊する気風が強く、その多くに貞松の序跋を見出すことからも、その人物の位置付が推知されよう。

20161101-中之島コミセンの展示より
長呂の理正(庄家)武石弘六の長男として生まれる。
頭脳明晰、長岡の誠意塾に学び、若くして塾頭に選ばれた。

越後漢詩三傑。新聞「東北日報」で漢詩撰者。
ちなみに同紙の同時期の俳句撰者は、会津八一。

水田区画整理事業「島田他三ヶ字耕地整理」に従事。
ツツガムシ対策で、名古屋医大の林博士を招く。
「済生利生」、地域のため私費を投入。
信濃川流域の荒地に柳を植樹し、柳行李特産の道を開くなど、
「殖産・農業経済の振興」に貢献。

越後漢詩三傑

「武石貞松」の名は「曾津八一伝」にも見られるので、次に紹介する「先生を増村度次に紹介したのは、越後の漢詩人武石貞松であった。先生若干にして越后俳壇に活躍し『東北日報』の俳句欄を担当していた時、武石貞松は同誌漢詩欄を受け持つていて知り合った仲である。当時の『東北日報』は大竹貫一、萩野左門が経営に当つて居た」とあり。

貞松は坂口五峰、増村度次と共に近代越後漢詩三傑の一人であつて、五峰の詩が政治的色彩強く、朴斎が儒学的傾向に流れているのに対して、最も純粹に文学的香気に富んだ詩人であった。貞松が増村度次の英語教員の需めに応じ旧知の先生を推薦したのである」とあり、有恒学舎への採用の詳細な経緯を示している。

会津八一を有恒学舎の英語教師に推薦したとされる武石貞松。
「会津八一と思師平野秀吉_武石貞松は近代越後漢詩三傑.pdf」

TAKEISHI Kouzaburou (1877 -1963)

He was born in Nagaoka, a sculpture, the first graduate of sculpture department in the Tokyo Art School.

He created a lot of sculptures before the world war 2, however almost all his works were lost with fusion for producing armament in the war.

One of his remaining works created before the war is stood in the museum in front of Hotel Ohkura.

A person posing for a portrait is the late OHKURA Kihachirou, the founder of the Ohkura industrial conglomerate.

After the war, he stop the creating activity, except for requesting from peoples in his home town and Niigata.

Currently, his several works can be enjoyed in the Niigata prefecture, in particular near Nagaoka.

One of his works created after the war is stood in the shrine near his birth place.

Persons posing for a portrait are the late TAKEISHI Teisyo, the eldest brother of TAKEISHI Kouzaburou, and the late HORIGUCHI Kumauchi, father of HORIGUCHI Daigaku.

The inscription stone stood near the sculpture was written by HORIGUCHI Daigaku.

The relationship between TAKEISHI Teisyo and HORIGUCHI Kumauchi through their lifetime is explained in the other topics-note.

近隣の武石弘三郎作のブロンズ像、大理石像

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ・久須美秀三郎 | 越後線小島谷駅前 |
| ・久須美東馬 | 弥彦公園内 瓢箪池の傍 |
| ・堀口九萬一、武石貞松 | 中之島・長呂 若宮社参道脇 「友情の双像」 |
| ・星野嘉保子（復元像） | 草生津・唯敬寺本堂前 |
| ・田村文四郎 | 悠久山 堅正寺脇 |
| ・池原康造（復元像） | 新潟市 新大医学部池原記念館前 |
| ・竹山屯（大理石） | 新潟市 新大医学部付属図書館三階 |
| ・新津恒吉 | 新潟市 りゅーとぴあ内 他 |
-
- | | |
|---------------|---------|
| ・老母 | 近美 |
| ・裸婦像レリーフ（大理石） | 近美 |
| ・真野夫妻像（石膏原形像） | 中之島、個人蔵 |

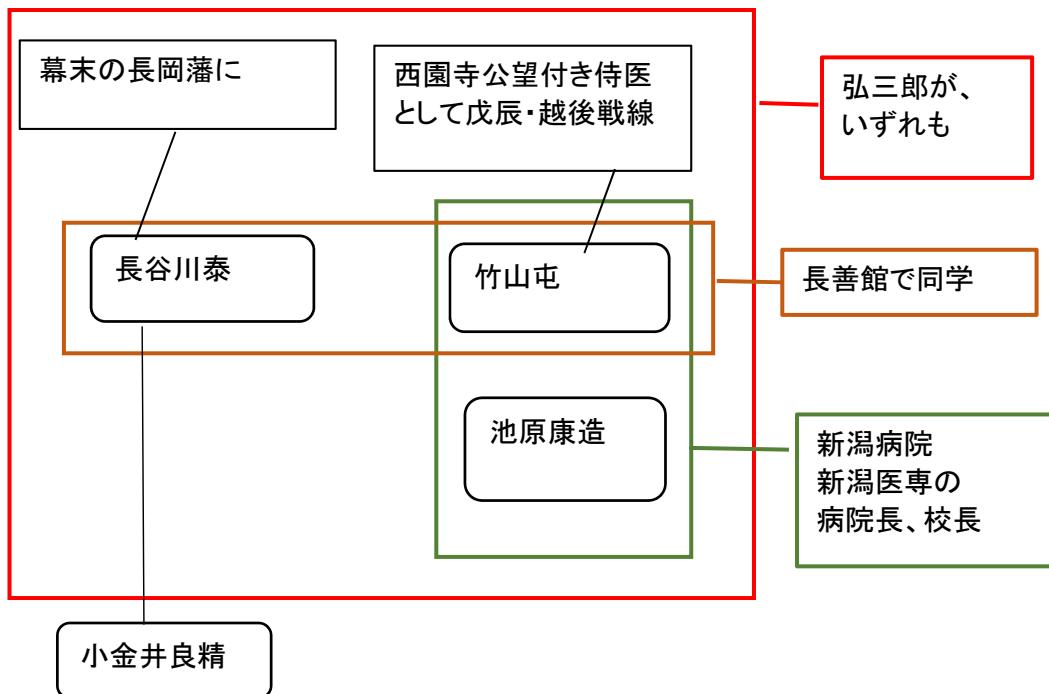
越後線小島谷駅前

1913年(大正2年)4月20日 - 越後鉄道・出雲崎 - 地蔵堂間開通の際に
与板駅(よいたえき)として開業。

1915年(大正4年)10月1日 - 小島谷駅に改称。

1927年(昭和2年)10月1日 - 越後鉄道が国有化。国鉄越後線所属となる。

弘三郎がかつて作像した、新潟の医学に貢献したリーダー
竹山屯・長谷川泰・池原康造の三人の関係、生歿年・作像年



武石弘三郎は、戦前に竹山屯・長谷川泰・池原康造の三人の像を製作している。
現在、竹山屯の大理石像、池原康造の復元銅像が、新大医学部キャンパス内の
医歯学図書館記念室、池長谷記念館前に、それぞれ配置されている。

長谷川泰 1842年-1912年 (作像 T5 1916)
竹山屯 1840年-1918年 (作像 T15 1926)
池原康造 -1916年 (作像 T 7 1918)

竹山屯(1840-1918)の受けた教育
姉の杖(結婚後、唯と改名)は、
入澤恭平(1831-1874)の妻、
入澤達吉の母。
達吉は大正天皇侍医頭。

竹山甫祐(1798-1871)の四男。
若月元輔・藍沢南城・鈴木文臺に学ぶ。
江戸で漢詩文の遊学。
入澤恭平(1831-1874)に学ぶ。
長崎精得館に留学。

小金井良精 1859- 1944年
銅像の記述は見当たりません。

東京大学医学部初代解剖学教授
長谷川泰の父・宗済は長岡随一の漢方の名医と呼ばれ、
若き日の虎三郎も掛かり付毛であったらしい。
虎三郎の甥・小金井良精は、長谷川泰の手引きにより
東京の大学で医学を学ぶ機会を得た。
森鷗外の妹婿でもある。

尚、弘三郎は、古くからの知人森鷗外の像を数点、作成しています。